

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ビジュアルデザイン科昼間部(3年制)	2025年度	3年MD専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
学科	古美術研修	専任教員、北 進一	1単位 25.5時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
ファインアート科、ビジュアルデザイン科3年生合同で行動。京都に3泊4日。仏像や障壁画を拝観。一般には公開していない特別拝観の寺院などに行く。(等伯の襖絵・等伯の障壁画・探幽の障壁画・狩野永岳の襖絵など)			
【講義概要】			
研修で見る寺院、仏閣にある仏像や襖絵、障壁画などは図録や美術書といった図版でしか普段は目にすることができません。たまに美術館で特別展示を行うこともありますが、現地で間近に見るのとは全く雰囲気も感じ方も違います。参加することはたとえ分野が違っていても今後の制作にいい刺激になることでしょう。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	東京から京都へ新幹線で移動		
2	醍醐寺見学		
3	智積院宝物庫見学		
4	養源院拝観／京都国立博物館見学		
5	平等院見学		
6	二条城見学		
7	広隆寺、東寺見学		
8	京都から東京へ新幹線で移動		
【成績評価方法】			
研修の参加を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、成績評価を行う。 なお出席が全体の2／3以下の場合、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とする。研修に参加しない学生にはレポート課題を提出。			
和光大学卒業後、中国・山東大学に留学。群馬県立女子大学兼任講師。専攻は日本および東洋美術史。著書に『ほとけを知るー仏像めぐりハンドブック』(シンコミュージック・エンターテイメント)『アシュラブック』(美術出版社)、共著に『カラー版東洋美術史』(美術出版社)。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2025年度	3年MD専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	動画広告A	岡山拓史	2単位 63時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
より短期間でアイデア出しから制作まで、スピードとクオリティを意識した制作を目指す。			
【講義概要】			
現代社会の中で変化し続けているメディアとデバイス、そこに付随した多様な表現方法が存在するクリエイティブの世界で、自身が進みたい業界や具体的に携わりたい職種など、個別にコミュニケーションを取りながら作品制作を進めポートフォリオのブラッシュアップを行う。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	18	ポートフォリオ作成
2	制作	19	ポートフォリオ作成
3	制作	20	進捗確認
4	制作	21	講評会
5	進捗確認		
6	企画、デザイン、絵コンテチェック		
7	企画、デザイン、絵コンテチェック		
8	企画、デザイン、絵コンテチェック		
9	制作		
10	制作		
11	進捗確認		
12	制作		
13	制作		
14	制作		
15	制作		
16	進捗確認		
17	ポートフォリオ作成		
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1980年神奈川県生まれ。東京デザイン専門学校卒業。スペースシャワーTVの映像制作部門「SEP」、デザイン事務所「FU TO NE」を経て2016年独立。グラフィック、ムービー、ウェブなどジャンルを問わずデザイナー／アートディレクターとして活動中。JAGDA正会員。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ビジュアルデザイン科 屋間部（3年制）	2025年度	3年MD専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	就活ポートフォリオ	田中北斗	1単位 33時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
希望の進路に向けたポートフォリオ作りには「戦略的な構成」「客観的な自己分析」「企業分析」が大切になります。また、PFのクオリティを上げる為の「作品撮影」も欠かせません。以上を踏まえた効果的なPF制作を目指します。			
【講義概要】			
各自の進路を見据え、希望するジャンルや企業などを検証。 企業の方向性に合わせた戦略的なポートフォリオの制作と合わせて、各自に合った自主課題（不足している作品、強化したいジャンルなど）を制作していきます。 ①進路ヒアリング（各自のアンケートをもとにポートフォリオ内容を検証） ②各自の自主課題内容に沿って制作 ③作品完成後は、ポートフォリオ用に撮影を実施			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエン＆個別面談		
2	作品のデータ整理		
3	作品のデータ整理＆PF制作		
4	PF制作		
5	PF制作		
6	PF初回提出		
7	PF制作		
8	PF制作		
9	PF制作		
10	PFの修正		
11	PFの最終提出		
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2／3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
1978年東京都生まれ。2001年創形美術学校ビジュアルデザイン科卒業。井上デザイン事務所・カワムラヒデオアクティビティを経て2008年に独立。音楽関連の仕事を中心にCD・レコード・アーティストグッズなどを手掛る。また音楽イベント・写真展・美術館企画展などのアートディレクションなども多数手掛ける。			

創形美術学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程		ビジュアルデザイン科 昼間部（3年制）	2025年度	3年MD専攻・前期
講義区分		授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技		広告デザイン応用	近藤 忠	1単位 30時間
【授業の到達目標及びテーマ】				
課題をとおり、広告表現の面白さと発想と技術を学ぶ。				
【講義概要】				
●課題①:コピーを考える(授業内完結) ●課題②:ビジュアルにコピーを付ける(授業内完結) ●課題③:公共広告を制作する(ラフ提出→講評→完成物提出→プレゼン→講評)				
回	授業計画及び学習の内容			
1	オリエン／課題①:説明・制作			
2	課題①:提出・講評			
3	課題②:説明・制作			
4	課題②:ラフ提出・講評			
5	課題②:制作・提出			
6	課題②:プレゼン・講評			
7	課題③:説明・制作			
8	課題③:ラフ提出・講評			
9	課題③:制作・提出			
10	課題③:プレゼン・講評			
【成績評価方法】				
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2／3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留				
【授業の特徴・形式と教員紹介】				
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。				
1958年新潟市生まれ。武蔵野美術短大専攻科卒。1990年近藤忠デザイン事務所設立。和光大学芸術学科特任教授。毎日広告デザイン賞／公共広告の部・最高賞、毎日広告デザイン賞／広告主参加の部・最高賞、東京ADC賞、等受賞。				

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2025年度	3年MD専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	メディアデザイン応用	伊波英里	1単位 45時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
多種多様な街頭ビジョンやデジタルサイネージが集まる“渋谷”の街を舞台に、デジタル広告の可能性を探ります。			
【講義概要】			
渋谷の街頭ビジョンやデジタルサイネージを使ったデジタル広告制作を想定し、企画、実制作、プレゼンまでを一貫して行います。実際の仕事の流れを体験することで、プロとしての制作スキルを養うことを目標とします。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	課外授業(渋谷)ビジョン・サイネージ視察		
3	企画書制作		
4	企画書制作		
5	企画書初回提出／FB:A		
6	企画書初回提出／FB:B		
7	企画書修正提出・絵コンテ初回提出／FB:A		
8	企画書修正提出・絵コンテ初回提出／FB:B		
9	動画制作		
10	動画進捗チェック／FB:A		
11	動画進捗チェック／FB:B		
12	動画初回提出:AB		
13	動画進捗チェック／FB:A		
14	動画進捗チェック／FB:B		
15	プレゼン・講評		
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2／3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
2003年創形美術学校ビジュアルデザイン科卒業。ニューヨーク滞在を経て、2010年よりアートディレクター／グラフィックアーティストとしての活動を開始。グラフィックデザインに軸足を置きつつ、広告や映像制作、空間演出など、多岐に渡り活躍中。近年の主な仕事にWoltCM、PARCO広告など。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ビジュアルデザイン科屋間部(3年制)	2025年度	3年MD専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	グッズ制作	山田淳史	2単位 72時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
ロゴ(ビジュアル)制作をし、各グッズに展開するまでを体験してもらいます。各グッズの特性を理解し、色数などを考慮しながらロゴ(ビジュアル)の展開を学んでいただきます。			
【講義概要】			
クライアントが参加する夏フェス用のグッズデザインを制作してもらいます。対象となるクライアントを各自設定し、夏フェス用グッズとして売れるデザインを考えてください。制作物は、うちわ／フォトホルダー／缶バッジ(モックアップ制作)、Tシャツ／タオル(紙ベースでの提出可)の計5アイテムと、A4サイズ商品カタログとなります。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	課題説明・ヒアリング	18	制作
2	制作	19	制作
3	アイデアチェック	20	制作
4	制作	21	作業 及び 撮影
5	制作	22	作業 及び 撮影
6	制作	23	制作
7	作業 及び 進捗確認	24	講評会
8	制作		
9	制作		
10	制作		
11	作業 及び 進捗確認		
12	制作		
13	制作		
14	制作		
15	制作		
16	制作		
17	制作		
【成績評価方法】			
試験を行い100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2／3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
デザイナー／イラストレーター。邦楽アーティストのツアー、イベント、ライブのアートワーク、キャラクターデザイン、ロゴデザインなど、多岐にわたって活動。合同会社MINATO			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ビジュアルデザイン科 屋間部 (3年制)	2025年度	3年MD専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	グラフィックデザイン応用	草谷隆文	2単位 63時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
「条件のある」「与えられたテーマ」を、自身の個性や特性をバランス良く取り入れたポスター制作をする。また、長期間にわたる制作期間を、上手くスケジュールリング出来るようにする。			
【講義概要】			
実際のコンペに各自参加し、コンペのテーマを全員で理解し、研究する。そして、ディスカッションをしながら、各自に合ったテクニックや表現方法をそれぞれ指導していく。事前準備や 作業の進め方は授業の中で説明。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	18	面接／個別指導
2	面談	19	面接／個別指導
3	テーマ発表	20	面接／個別指導
4	制作	21	講評会
5	制作		
6	制作		
7	各自テーマ決定／発表		
8	制作		
9	制作		
10	面談		
11	制作		
12	制作		
13	制作チェック		
14	制作		
15	制作		
16	面談		
17	制作		
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2／3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
1963年静岡県生まれ。1985年玉川大学文学部教育学科教育哲学専攻卒業。1989年廣村デザイン事務所入社。1996年有限会社草谷デザイン事務所設立。[入選／受賞歴]1994年準朝日広告賞。1995年JAGDA新人賞。2001年グッドデザイン賞部門賞。2008年準朝日広告賞。2009年朝日広告賞グランプリ。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2025年度	3年MD専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	動画広告B	大久保榛菜 岡山拓史	1.5単位 105時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
2年次の授業で学習したことをベースに、より短期間でのアイデア出しから制作まで、スピードとクオリティを意識した動画広告の制作を目指す。			
【講義概要】			
幅広いジャンルと様々な表現方法が存在する映像の世界で、自分が将来進みたい業界や具体的に携わりたい職種など、個別にコミュニケーションを取りながら制作を進める。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	18	編集チェック
2	企画制作	19	編集チェック
3	企画制作	20	デモデータ確認
4	企画制作	21	デモデータ確認
5	進捗確認	22	再撮影
6	企画、デザイン、絵コンテチェック	23	再撮影
7	企画、デザイン、絵コンテチェック	24	編集作業
8	企画、デザイン、絵コンテチェック	25	編集作業
9	ロケーションハンティング	26	編集作業
10	ロケーションハンティング	27	編集チェック
11	カメラワーク	28	編集チェック
12	カメラワーク	29	ブラッシュアップ
13	カメラワーク	30	ブラッシュアップ
14	カメラワーク	31	ブラッシュアップ
15	編集作業	32	プレゼンテーション
16	編集作業	33	プレゼンテーション
17	編集作業	～35	講評会
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2／3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 大久保榛菜:2001年生まれ。2023年創形美術学校ビジュアルデザイン科卒業。デザイナー。 岡山拓史:1980年神奈川県生まれ。東京デザイン専門学校卒業。スペースシャワーTVの映像制作部門「SEP」、デザイン事務所「FU TO NE」を経て2016年独立。グラフィック、ムービー、ウェブなどジャンルを問わずデザイナー／アートディレクターとして活動中。JAGDA正会員			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2025年度	3年MD専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	映像制作2	奥牧裕介	1.5単位 102時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
卒業制作の進行とレベルアップ。もしくは、それに必要な技術の研究と習得。			
【講義概要】			
個々の卒業制作の進行とクオリティアップを目的とした技術的・技法的指導。校外展出展作品の制作。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	18	制作、相談、ブラッシュアップ
2	制作	19	制作
3	制作	20	制作
4	制作	21	制作
5	制作	22	制作
6	制作	23	制作
7	制作	24	個別指導
8	全体構成の把握とスケジュール確認	25	個別指導
9	制作	26	個別指導
10	制作	27	個別指導
11	制作	28	個別指導
12	制作	29	個別指導
13	制作	30	個別指導
14	状況の確認、制作、相談、問題解決	31	ブラッシュアップ
15	制作	32	ブラッシュアップ
16	制作	33	ブラッシュアップ
17	制作	34	講評会
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2／3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
1981年長野県生まれ。2004年岡山県立大学デザイン学部ビジュアルデザイン学科映像コース卒業。2005年A.T-ILLUSION株式会社デジタル部入社。アナログ・デジタル問わず、TV-CM、映画、イベントムービーなどのビジュアルエフェクト制作や編集等に参加。現在はフリーで活動中。マクドナルド『ハッピーセット』、東芝『REGZA』映画『星になった少年』等多数。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ビジュアルデザイン科屋間部(3年制)	2025年度	3年MD専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	リ・デザイン	関根慎一	3単位 120時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
既存の展覧会告知フライヤーを既成概念に捉われない新しいアプローチやアイデアによってリ・デザインする事で、コミュニケーションデザイン(アートディレクション)の可能性を探る。			
【講義概要】			
①制作期間内に観覧可能な都内(または近郊)で開催されている美術館・博物館の企画展を観覧し、内容(作家・作風・流派)を把握する。実際のフライヤーも入手する。 ②展示作品及び作家のポートレート(写真)は一切使用せずに、展覧会内容が伝わる様な(興味を喚起する様な)ビジュアルを考える。 ③告知に必須の要素(実際のフライヤーを参照)をレイアウトして、企画展のフライヤー(A4・オモテ面のみ)を制作する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	課題説明・ヒアリング	18	制作
2	制作	19	制作
3	アイデアチェック	20	制作
4	制作	21	作業 及び 撮影
5	制作	22	作業 及び 撮影
6	制作	23	制作
7	作業 及び 進捗確認	24	制作
8	制作	25	制作
9	制作	26	制作
10	制作	27	作業 及び 撮影
11	作業 及び 進捗確認	28	作業 及び 撮影
12	制作	29	作業 及び 撮影
13	制作	30	編集作業
14	制作	～35	編集作業
15	制作	～40	プレゼンテーション／講評会
16	制作		
17	制作		
【成績評価方法】			
試験を行い100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2／3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
関根慎一:1961年、神奈川県生まれ。1987年、東京芸術大学大学院視覚デザイン専攻修了。株式会社LD デザイン事務所を経て、1997年、関根慎一デザイン室設立。企業・商品・イベント・展覧会などの広告、CI、ブックデザイン、カレンダー、ミュージアムグッズなどの制作。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ビジュアルデザイン科 昼間部 (3年制)	2025年度	3年MD専攻・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	卒業制作	岡山拓史	16単位 408時間

【授業の到達目標及びテーマ】

創形で学んだ3年間の集大成として、自身の表現の領域に於けるクオリティを追求しつつ、卒業制作としてふさわしい、社会性を意識した完成度の高い作品を制作します。そのうえで校内外の卒業制作展で発表することを目標とします。プロのクリエイターとして充分通用する表現とプロとしてあるべき姿勢を求めます。

【講義概要】

卒制ガイダンスにて、詳細は説明します。
各専攻の専任教員の個別指導に従い、コミュニケーションを大切にしながらゼミ形式での授業を行います。

回	授業計画及び学習の内容		
1～5	制作、制作指導	～90	制作、制作指導
～10	制作、制作指導、中間チェック	～95	制作、制作指導
～15	制作、制作指導	～100	制作、制作指導
～20	制作、個別指導	～105	制作、制作指導
～25	制作、個別指導、中間チェック	～110	制作、制作指導、中間チェック
～30	制作、制作指導	～115	制作、制作指導
～35	制作、制作指導	～120	制作、制作指導
～40	制作、個別指導、中間チェック	～125	制作、制作指導
～45	制作、個別指導	～130	制作、制作指導
～50	制作、個別指導	～135	制作、制作指導
～55	制作、制作指導	136	講評会
～60	制作、個別指導、中間批評会		
～65	制作、制作指導		
～70	制作、個別指導		
～75	制作、個別指導、中間チェック		
～80	制作、個別指導		
～85	制作、個別指導、中間チェック		

【成績評価方法】

課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。
なお出席が全体の2／3以下の場合は、成績評価の対象外となる。
合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。

1980年神奈川県生まれ。東京デザイン専門学校卒業。スペースシャワーTVの映像制作部門「SEP」、デザイン事務所「FU TO NE」を経て2016年独立。グラフィック、ムービー、ウェブなどジャンルを問わずデザイナー／アートディレクターとして活動中。
JAGDA正会員